

2014 アジアジュニアカデ選手権結果報告

第1日目/3月8日(土)

カデ女子フルーレで溝口礼奈が3位入賞となりました。中国選手が力を奮う中、堂々の3位でした。

【カデ女子フルーレ】

<最終結果 1位~3位> 8ヶ国/26名参加

- 1位 HUANG Ali (CHN)
- 2位 CHEN Qingyuan (CHN)
- 3位 溝口礼奈 (JPN/松戸柿の台スケルマ)
- 3位 XIONG Xueying (CHN)

<日本選手結果>

- 3位 溝口礼奈 (松戸柿の木台スケルマ)
- 5位 辻すみれ (岐阜聖徳学園大学附属中学校)
- 7位 梅津春香 (JOC エリートアカデミー/帝京高等学校)
- 16位 登尾早奈 (三島フェンシングクラブ)

<予選プール>

- 溝口礼奈/5勝1敗 (T16にシード)
- 辻すみれ/5勝0敗 (T16にシード)
- 梅津春香/3勝2敗 (T16にシード)
- 登尾早奈/2勝4敗

<T32>

- 登尾早奈 V15対8 PROVODNIKOVA (KAZ)

<T16>

- 溝口礼奈 V15対10 LEE Areta (HGK)
- 辻すみれ V15対3 SEIDAKHMETOVA (KAZ)
- 梅津春香 V15対6 LAU Ysien (SIN)
- 登尾早奈 11/V15 HUANG Ali (CHN)

<T8>

- 溝口礼奈 V10対3 YAN Ho Ching (SIN)
- 辻すみれ 6対V14 XIONG Xueying (CHN)
- 梅津春香 6対V15 CHEN Qingyuan (SIN)

<セミファイナル>

溝口礼菜 7 対 V15 HUANG Ali (CHN)

【カデ男子エペ】

<最終結果/1 位～3 位> 19 ヶ国/55 名参加

1 位 KE Yulong (CHN)

2 位 GU Xin Yuan (CHN)

3 位 CHUANG Po Yu

3 位 ZHU Haiyu

<日本選手最終結果>

5 位 古俣 聖 (新潟第一高等学校)

8 位 加納虹輝 (岩国工業高等学校)

12 位 川北信海 (愛知工業大学附属高等学校)

29 位 西沢 樹 (本郷高等学校)

<予選プール>

古俣 聖 5 勝 1 敗 (T32 にシード)

加納虹輝 2 勝 4 敗

川北信海 4 勝 2 敗 (T32 にシード)

西沢 樹 2 勝 4 敗

<T64>

加納虹輝 V15 対 9 MUQRI Mohammed(KSA)

西沢 樹 V15 対 10 ALKHALDI Mohammed (KSA)

<T32>

古俣 聖 V15 対 8 AL SHAMMARY Abdul Aziz (KUW)

加納虹輝 V13 対 12 CHEN Zachary(SIN)

川北信海 V14 対 13 DABABNEH Abdllah (JOR)

西沢 樹 13 対 V14 KE Yulong(CHN)/西沢-敗退

<T16>

古俣 聖 V15 対 8 川北信海/川北-敗退

加納虹輝 V15 対 13 ALSHEIKHYOUSEF Nidal(JOR)

<T8>

古俣 聖 10 対 V15 GU Xin Yuan/古俣-敗退

加納虹輝 12 対 V15 ZHU Haiyu(CHN)/加納-敗退

現地での調整時間が数日あったため万全の状態で行き込めた。予選を終え 2 名がシード (T32)2 名が T64 からのスタートとなった。初戦を全員勝ち進みトーナメントベスト 8 をかけた試合ではシードの日本人同士が当たってしまった。準決勝をかけた試合では加納、古俣両名共、中国選手に当たり惜敗した。今大会の上位 3 名の内 2 名が昨年のアジアユースにおいて優勝、準優勝の選手でとてもレベルの高い試合になった。だが、日本選手がトップの選手に対し、駆け引きであったり、意図しているポイントを狙えて取れている場面も多くあった。課題としては剣の接触等のバリエーションが求められる。次にある世界カデや今年行われるユースオリンピックにはそこを改善し強化していきたい。

【カデ男子サーブル】

<最終結果/1 位～3 位>11 ヶ国/38 名参加

1 位 YAN Yinghui(CHN)

2 位 ALSHAMALAN Yousef(KUW)

3 位 CHAN Check Him(HKG)

ALSHAMALAN Bunder(KUW)

<日本選手最終結果>

7 位 高澤和樹 (埼玉栄高等学校)

23 位 小山桂史 (岐阜聖徳大学附属中学校)

28 位 清水紀宏 (JOC エリートアカデミー/帝京高等学校)

<予選プール>

高澤和樹 3 勝 3 敗

小山桂史 2 勝 4 敗

清水紀宏 2 勝 4 敗

<T32>

清水紀宏 14 対 15V ALMUTAIRI Adel(KSA)/清水-敗退

小山桂史 11 対 15V AL SEIFI Yousef(JOR)/小山-敗退

高澤和樹 V15 対 10 SEE Daniel(SIN)

<T16>

高澤和樹 V15 対 10 ER Fellini(SIN)

<T8>

高澤和樹 11 対 15V CHAN Check Him(HKG)/高澤-敗退

今大会は、韓国は不参加で、中国、香港、台湾、シンガポール、カザフスタン、クウェート、タイ、フィリピン、ウズベキスタン、サウジアラビア、ジョルダンの国が参加した。予選プールでは、緊張がみられ細かいミスなどがあり、またリードしていても逆転される試合が多かった。

トーナメントでは、清水、小山は、1セット目に流れをつかめず、リードして終わることができずに点差が開き、2セット目はポイントを取ることができても1セット目の点差が大きく勝つことができなかった。特に、清水に関しては、1セット目に2-8とリードさせられていたが、2セット目は12-7の内容で評価できる。高澤は、勝った試合では常にリードを保ち、点差をつめられることもあったが、冷静な判断で最後までリードを保ち勝つことができた。ベスト4をかけての試合では、負けてしまったが、大きな差はなく、細かいミスをなくすことでメダルの可能性が出てくる。